

日本 ⇔ カンボジア
 ティーンエイジ アンバサダー 2017
 日本プログラム
 実施報告書



日本

カンボジア



AEON 1%
Club Foundation

2017年10月10日

各位

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
事務局長 本田 陽生

日本⇔カンボジア 高校生国際交流事業 日本プログラム

実施報告書

平素より、私どもの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標記の件につき、下記の通りご報告申し上げます。

記

I. 交流期間：9月11日（月）～9月17日（日）

II. 参加者：

日本高校生	（鳥取県立鳥取西高等学校）	16名
カンボジア高校生	（ ^{バックトゥーク} Bak Touk High School）	16名

III. 訪問場所：東京都、鳥取県鳥取市、倉吉市

IV. 事業の目的

本事業は、次代を担う日本と海外の高校生が相互交流を通じ、互いの国の文化や価値観の多様性を学ぶことを目的とした交流事業です。

V. 交流プログラム内容：

① 表敬活動

石破 茂議員 表敬訪問、外務省表敬訪問	9/12（火）東京都
在日カンボジア王国大使館 歓迎会	9/12（火）東京都
鳥取県教育委員会 表敬訪問	9/14（木）鳥取市

② 歴史・文化理解活動

視察・学習プログラム

上智大学訪問 石澤所長より講義	9/11（月）東京都
江戸東京博物館	9/12（火）東京都
賀茂神社 浅野温子よみ語り	9/13（水）倉吉市
鳥取砂丘視察	9/14（木）鳥取市
砂の美術館視察	9/14（木）鳥取市

体験プログラム

砂像づくり体験	9/14（木）鳥取市
---------	------------

③ 交流活動

ホームステイ	9/15（金）-9/17（日）鳥取県
学校訪問・授業体験	9/15（金）鳥取市
フェアウェルパーティー	9/17（日）鳥取市

VI. 今回の交流プログラムの特徴

両国高校生が、上智大学 アジア人材養成研究センター 石澤所長（元同大学学長）より、クメール文化保全のための取り組みについてのレクチャーを受講。また、倉吉市にて迫力のある読み語りを視聴し、当財団における他事業を通して日本、あるいは郷土の文化に触れた。



↑ホストファミリーと記念撮影をするカンボジア高校生（右から2番目）

VII. 活動の様子 :

【1】【表敬活動】

◆ 石破議員 訪問 9月12日



↑石破議員のレクチャーを聞く両国高校生

(スピーチより抜粋)

日本の自衛隊が初めて海外で活躍したのがカンボジアでした。橋や道路の修復のほか、初めての民主主義選挙が行われるよう公務員もサポートに行きました。これらの活動により、日本とカンボジアの繋がりは深くなりました。日本の高校生は、カンボジア内戦の事実など歴史についてもよく学んで下さい。また今後、日本が北朝鮮や中国とどのような関係を築いていくべきか、近隣国との関係改善に努力してきたカンボジアの皆さんと話をしてみてください。



↑石破議員へ記念品を贈呈するカンボジア高校生



↑議員と交流する日本高校生

◆ 外務省表敬訪問・質問会 9月12日



↑会見室にて記念撮影



↑質問するカンボジア高校生



↑質問する日本高校生



↑南東アジア第一課 交渉官 川口正樹 様に高校生より記念品贈呈

◆ 在日カンボジア王国大使館（歓迎会） 9月12日



↑大使館にて歓迎会の記念撮影

（前から3列目 左から）外務省南東アジア第一課 川口正樹 交渉官、三原じゅん子議員、福山哲郎議員、玄葉光一郎議員、イオン(株)岡田卓也 名誉会長相談役、チア キムター大使、イオン1%クラブ 横尾博 理事長、中川正春議員、小淵優子議員、イオン(株) 岡田元也 代表執行役社長、イオン(株)林直樹 相談役



↑駐日カンボジア王国チア大使よりご挨拶

（スピーチより抜粋）

このプログラムは、日本とカンボジアの外交関係開始 65周年である今年行われるに、ふさわしい取り組みだと思えます。若い時期から異文化理解を深めることは両国の友好関係の強化に繋がり、私はこの事業を大変高く評価しています。カンボジアの高校生は本国の持続的発展のために、今後の競争に備えていく必要があります。日本での滞在を楽しみ、多くの知識を得て下さい。



↑加藤勝信 厚生労働大臣よりご挨拶

（スピーチより抜粋）

私は、この高校生交流プログラムには 2013 年からの5年間に8回参加し、約400名の高校生とお会いしました。この後訪問する鳥取は自然も多く、人々もあたたかく素晴らしい所です。ぜひおいしい物を食べて、今後の飛躍につなげて下さい。



↑中根一幸 外務副大臣よりご挨拶

（スピーチより抜粋）

来年シムリアップに日本総領事館事務所が開設予定であり、両国の友好関係の進展を嬉しく思っています。高校生の皆様が両国の今後について大いに意見交換をし、ネアックルン橋のように両国の架け橋となることを願っています。



↑中川正春 議員より乾杯のご挨拶

(スピーチより抜粋)

カンボジア高校生の皆様、日本で大切な友達を沢山作って下さい。そして、ぜひ、次は日本へ留学生となってまた帰ってきて下さい。両国の親善のために、またこの若い世代の方に新しい時代を切り開いて欲しいと願っています。



↑カンボジア高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

このプログラムが両国の友好親善に寄与することは間違いありません。さらに、両国の文化理解を深めます。日本人の皆さんはとても礼儀正しく、真面目で我慢強く、私はすべてを見習いたいと思います。そして、ここで学んだ貴重な経験は国に帰って、仲間にも共有したいと思います。



↑日本高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

今日はこのような会を開催いただき、ありがとうございます。明日から、私たちの地元鳥取での活動となります。世界に発信している名産としては、らっきょうや梨があります。砂丘があることも有名です。この交流での出会いを大切にして、かけがえのない思い出となることを願っています。



↑ 来賓と交流する高校生 ↑



↑カンボジア高校生のパフォーマンス (ココナッツダンス)



↑日本高校生のパフォーマンス (鳥取しゃんしゃん傘踊り)

◆鳥取県教育長 表敬訪問 9月14日



↑鳥取県 山本 仁志 教育長のスピーチ

(スピーチより抜粋)

鳥取は日本一人口の少ない県ですが、自然が沢山あり、食べ物やお水も美味しいところです。特に今は梨や海産物が美味しい時期です。さて、このグローバル化社会の中では1国では解決できない場面に多国間で意見を出し合い解決策を導くこともあります。従って、ただ自己の主張ばかりではなく相手の意見やその背景に目をむけることも必要です。高校生の皆様もこの事業を通してお互いの理解を深め、両国の発展のために皆さんが主役となって貢献して下さい。



↑カンボジア高校生スピーチ

(スピーチより抜粋)

今回私たちは初めて自国を離れ、外国を訪問しています。日本の方々よりたくさんの、非常に素晴らしい経験をさせて頂き、驚きの連続です。昨日の午後は、倉吉市の賀茂神社で日本のお芝居を拝見させて頂きました。日本の皆様には、これまでカンボジアにたくさんのご支援をいただきましたことに感謝いたします。皆様の友情、そして、おもてなしに大変心を打たれています。



↑記念品贈呈 カンボジア高校生

鳥取県は非常に美しい場所です。また是非来たいです。



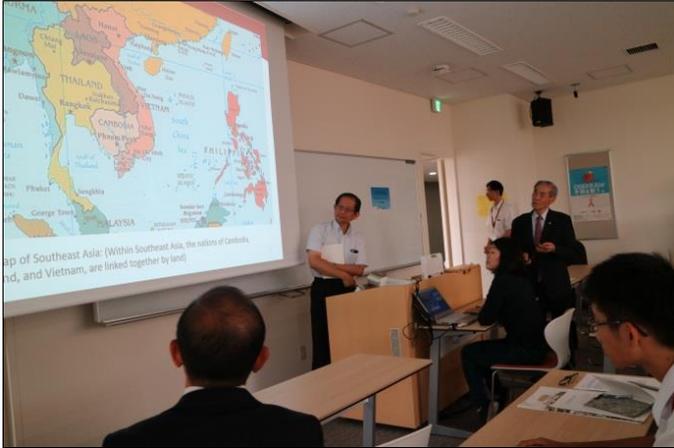
↑鳥取県訪問の感想をのべるカンボジア高校生



↑教育長 山本 仁志 様とともに記念撮影

【2】【歴史・文化理解活動】

◆ 上智大学訪問 石澤良昭 所長よりレクチャー 9月11日



↑クメール文化の保全についてレクチャー

アンコールの遺跡とそれをめぐる背景と歴史、そしてその価値についてお話がありました。800年前にどの様に建造したのか、実験をしながら解明していく研究について、また内戦を経験しながらも多くの遺跡や博物館所蔵品が無事であったこと、カンボジア人による研究が進むよう上智大学でサポートしていること等について丁寧に教えて頂きました。

また、国旗に遺跡を用いている国はカンボジアだけで、遺跡が国民の象徴となっている事の表れであるとお話もありました。

*石澤良昭 教授：2017年7月 功績が讃えられ、アジアのノーベル賞と呼ばれる ラモン・マグサイサイ賞 を受賞



↑質問するカンボジア高校生

(質疑応答より抜粋)

昔の建造方法の仮説を伺いましたが、他にも仮説はありますか？

石澤所長の回答：沢山の仮説があり、ひとつずつ検証をしながら研究しています。まだ研究途中です。

(スピーチより抜粋)

カンボジアの遺産を守るための手助けをして下さっているという壮大なご講義に感謝しています。アンコールワットは長い間アジアを代表する観光地となっています。観光は経済効果をもたらす一方で、遺跡の破壊にもつながりかねません。今では文化的・教育的措置から遺跡保護のために訪問時には多くの留意点が指示されています。



↑カンボジア高校生スピーチ



石澤良昭 所長 (中央)、上智学院 木村増夫 理事長補佐 (中央左)、イオン1%クラブ 横尾博 理事長 (中央右)
上智大学 イオンスカラシップ学生 (後列右端) も参加し、記念撮影

江戸東京博物館 9月12日(東京都)



↑江戸時代の展示物を鑑賞



↑展示物の説明をペアにしている日本高校生

◆ 浅野温子 読み語り 9月13日(鳥取県倉吉市)



感想を述べるカンボジアの高校生↑

(スピーチより抜粋)
カンボジアにも地域にまつわる話がありますが、
一人で何役もこなしながら物語を話すスタイルは
初めて見ました。



↑浅野温子様へ高校生から記念品贈呈



↑来賓や主催者を交え 記念撮影

◆ 鳥取砂丘・砂の美術館視察・砂像づくり体験 9月14日



↑ 日本海をバックに砂丘にて

↓ 砂像づくりにチャレンジする
カンボジア高校生



↑ 巨大な砂像の前でポーズをとる
カンボジア高校生

【3】【交流活動】

◆ 学校訪問・授業体験 9月15日



↑加賀田副校長よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

カンボジアの皆さん、ようこそお越しくございました。鳥取西高等学校は145年の歴史を持つ、県で一番古い学校です。史跡との共存をコンセプトに校舎の耐震工事をし、歴史を感じさせる仕様を施しながら自然の光と風を取り込むなど、日本建築の最新技術を施した建物になりました。短い時間ではありますが、存分に楽しんで下さい。様々な体験の共有により、友情の輪が広がることを願っています。



↑カンボジア高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

校長先生始め、私たちの訪問を受け入れて下さった皆さまにお礼申し上げます。私は今回初めて日本に来ていろいろなものを見ましたが、まだまだ学びたいことがあります。それは美しい自然や環境や最新技術のこと、人を尊敬するという文化、そして日本人が礼儀正しいということなどです。今日は特に日本の教育システムについても学びたいと思います。



↑ペアで授業を受ける



↑両国の学校の違いや共通点についてディスカッションする様子



↑書道体験



↑なぎなたに挑戦

◆ ホームステイ 9月15日ー17日 鳥取県



夕食に手作り海苔巻の作り方・食べ方を教わり、初めて食べてみるカンボジア高校生（右）↑



台風の影響で風雨に見舞われる中、体育館に集まったメンバーでフットサルをする両国高校生。

鳥取西高校ホストファミリーのコメント（アンケートより抜粋）

初めてホームステイ受け入れをしましたが、普段バラバラの家族が一同となって過ごすことができ、大変有意義な日々でした。わが子の人間力もアップしたのではないかと思います。このような機会を与えていただき、感謝しています。

カンボジアがどんな国でどんな言葉を話すのか、今回の交流がなければ知ることができませんでした。次にわが子がカンボジアを訪問した時にどう成長するか楽しみです。

貴重な経験を家族もさせて頂きました。英語や海外への興味も増し、今後の学生生活に目標をもつことができたようです。今回の経験から自信にもつながったようで、この事業は素晴らしいと思います。

こういう機会があってこそその体験を、わが子にさせることができました。知っているだけでなく、やってみることの大切さを改めて感じました。

◆ フェアウェルパーティー 9月17日



↑両国高校生、ホストファミリー、来賓での記念撮影



↑鳥取西高等学校 山本校長より乾杯のご挨拶

(スピーチより抜粋)

この交流とホームステイを通して、カンボジア高校生は日本の文化を肌で感じ、見方・考え方を一層深めてくれたと思います。わが校の生徒も国や文化の違いを超え心が通い合う喜びを感じたことでしょう。若い世代が理解を深めることは意義深く、今後両国の豊かな未来の創造につながると思います。11月のカンボジア訪問により、さらに友好の輪が広がることを願っています。



↑イオン鳥取北店 白石店長 よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

今回のプログラムではイオン鳥取北店へのご来店をありがとうございました。鳥取を代表する二十世紀梨を沢山召し上がっていただき、気に入ってもらえたようで嬉しいです。「雨降って地固まる」という日本のことわざもありますが、皆さんの友情も、本日の台風を乗り越え強固なものになるように祈っています。



↑来賓と一緒に



↑ホストファミリーと一緒に



↑日本高校生によるパフォーマンス



↑カンボジア高校生によるパフォーマンス



↑カンボジア高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

本日は日本滞在の最終日です。日本の文化や伝統を深く理解し、カンボジアとの違いを学びました。沢山の有益なことを学びました。日本で過ごしたすべての時間が忘れられません。とても楽しく、日本を離れることが寂しいです。日本の皆様には温かく迎えて頂きました。次はカンボジアで日本の皆様をお迎えできることを楽しみにしています。



↑日本高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

カンボジアの皆さん滞在中いかがでしたか？おそらく左側通行には慣れたと思います。この7日間の交流ではお互いの友情を深める大事な時間を過ごしましたし、両国の違いも学びました。もしかしたらもっと上手くコミュニケーションをとれたら・・もっと英語が上手かったら・・という後悔もあるかもしれませんが、でも私たちは11月に再会できますから、それまでに少し成長していることでしょう。またお会いしましょう。



↑今回の活動のハイライトを観ながら「We are the world」を合唱する両国高校生



↑別れを惜しみ抱き合う両国高校生

【4】 参加者の感想：(スピーチ、アンケートより抜粋)

カンボジア
高校生



このプログラムを通して、日本の文化・伝統・歴史を学びました。ライフスタイルや考え方や教育システムについても知ることができました。そして日本人がとても親切で、かっこよく、そして可愛いと思いました。ホームステイ中には素晴らしいご馳走をいただき、天ぷらとかつ丼は特に気に入りました。



日本伝統舞踊・文化・食べ物、そして鳥取の有名な観光地など体験できました。授業体験では教育システムも学ぶことができました。友達が沢山できてクラスメートになりました。ホームステイではカンボジアでは経験のない「道の渡り方」を学び、日本での食事時の挨拶や食べ方を教わりましたし、友人との買い物というのを初めて体験しました。もっと長い時間訪問したかったです。

日本
高校生



カンボジアの学生と聞いて、固いイメージを勝手に想像していたが、自分たちと笑いのツボや価値観がよく似ていて、驚きました。英語で打ち解ける事もできましたし、お土産もいただいて、カンボジア人は親切だと思いました。もっと伝えたいことを十分に伝えられたらよかったです。



学校では経験できないような人生に一度きりの体験ができました。ジェスチャーを使ったり「伝えよう」という強い気持ちを持っていれば、文法など完璧でなくても伝わることを実感しました。短い期間でしたが、国の壁を越えてペアの子とも、みんなとも仲良くなれて良い交流になりました。

引率先生



ネット チャンソック 教育局長

このプログラムは両国高校生に、コミュニケーションの取り方や時間や行動の結果に対して高い責任力をもつことを教えてくれました。特にチームワークの取り方や、ホームステイ先の親たちとどう過ごすかを教わり、昔からの知り合いであったかのように過ごすことができました。私は日本や日本の皆さんが好きです。我が国も日本のように発展した国にしたいと思います。



引率先生

このプログラムに大変感謝しています。個人的には上智大学でのアンコールワットに関するレクチャーに感銘を受け、大変栄誉なことと感じました。日本人は親切でフレンドリーで正直で、しかも他人への配慮があり、そして仕事には少々厳しいですね。また日本の安全は信頼できるものでした。高校生たちも友好を深め、お互いの国を理解することができました。

以上